

群 教 セ	E03 - 03
	平17.227集

# 思いやりの心をはぐくむ学級経営の工夫

## — 児童の実践活動「思いやり100パーセント大作戦」を通して —

特別研修員 岡田 澄恵 (太田市立南小学校)

### 《研究の概要》

本研究は、小学校5年生を対象に、思いやりのある行動とは何かを考え、それらを実行に移す活動を通して「思いやりの心をはぐくむ学級経営」を目指したものである。具体的には、学級で思いやりのある行動について話し合い、共通の行動目標を作り、日常での実践と振り返りを行う。さらに友達や自分が取り組んだことの価値について話し合い、個人としての具体的な行動目標を新たに作成し、周囲のことを考え、実践する活動を行った。

**キーワード** 【学級経営 小学校 学級活動 道徳 思いやり】

### I 主題設定の理由

「思いやりのある子になってほしい」担任としてごく自然に児童に願うことである。「思いやり」とは相手に対する特別な心づかいと考えがちであるが、学校にある様々なルール、例えば「時間を守る」「廊下を走らない」など当たり前のことの根底にも他者に対する優しい思いがあると考えられる。しかし、そのことを意識している児童は少ない。

本学級（小学5年生 男子14名 女子14名 28名）の児童は素直な子が多く、落ち着いて生活することができる。ルールを守ることのできる児童が多い学級である。反面、返事やあいさつの声には張りがなく、落ちているゴミを拾うなどルールとして定められていないことには進んで取り組むことがなかなかできず、指示待ちの児童が多い。

そこで一人一人に思いやりの心は芽生えていること、気付かないうちにそれを行動に移していることを意識させ、さらにそれを主体的に発揮したり伸ばしたりしようとする気持ちを高めていくことが必要であると考えた。

本研究では、他者への思いやりにつながる行動を学級全体で考え、実行に移す。その活動を児童がお互いに認め合ったり、学び合ったりすることで、今度は一人一人が周囲の人のために「自分にもできる」と思うことを考え実践していく。「思いやり100パーセント大作戦」と名付けたこの一連の活動を通して、他者を思いやり、自分に何ができるかを考えることができる児童が育っていくと考え本主題を設定した。

### II 研究のねらい

「思いやり100パーセント大作戦」の活動において、学級として取り組む「できたらいいね5年3組十か条」や、自分の行動としての「私の〇か条」を実行することにより、他者を思いやって自分にできることを考える児童が育つことを、実践を通して明らかにする。

### III 研究の見通し

- 1 学級活動において「みんなのためにできたらいいね」の行動のイメージ作りやイメージした内容のグルーピング、思いやりの行動につながる「できたらいいね5年3組十か条」の作成を通して、自分たちも思いやりが根底にある行動をとろうという意識をもつことができるであろう。
- 2 日常生活において「できたらいいね5年3組十か条」をもとに「思いやり100パーセント大作戦」を実践し、カードに記録した活動内容を紹介する。お互いの行動の価値を認め合ったり、学び合ったりすることから周囲の人のことや状況を考えて行動しようとする意識を高めることができるであろう。
- 3 学級活動において「思いやり100パーセント大作戦」を振り返り、「私の〇か条」を作成し実践することで、みんなを思いやり、自分にできることは何かを考えることができるようにな

るであろう。

#### IV 研究の内容

##### 1 基本的な考え方

###### (1) 「思いやりの心」とは

思いやりの心とは「相手のことを考える温かい心」ととらえた。よりよい人間関係を築いていくために必要なものであり、困っている人に優しく声をかけたり、人の役に立つ行いをしたりという行動のもとになるものである。

「時間を守る」「元気にあいさつをする」など日常生活の中の何気ない行動も「相手の時間も大切にしている」「相手をさわやかな気持ちにする」など、通常意識しているわけではないが「思いやりの心」がもとになっている。児童の多くは「思いやりの心」を特別な心づかいや、その心づかいから出る言動とと思っていることが多い。

そこで自分たちの中にこれまでもあった思いやりに気付き、その行動を認め合うことから始め、さらに周囲に気持ちを向けて自分にできることに取り組んでいく児童をはぐくむことを目指している。

###### (2) 「思いやり100パーセント大作戦」とは

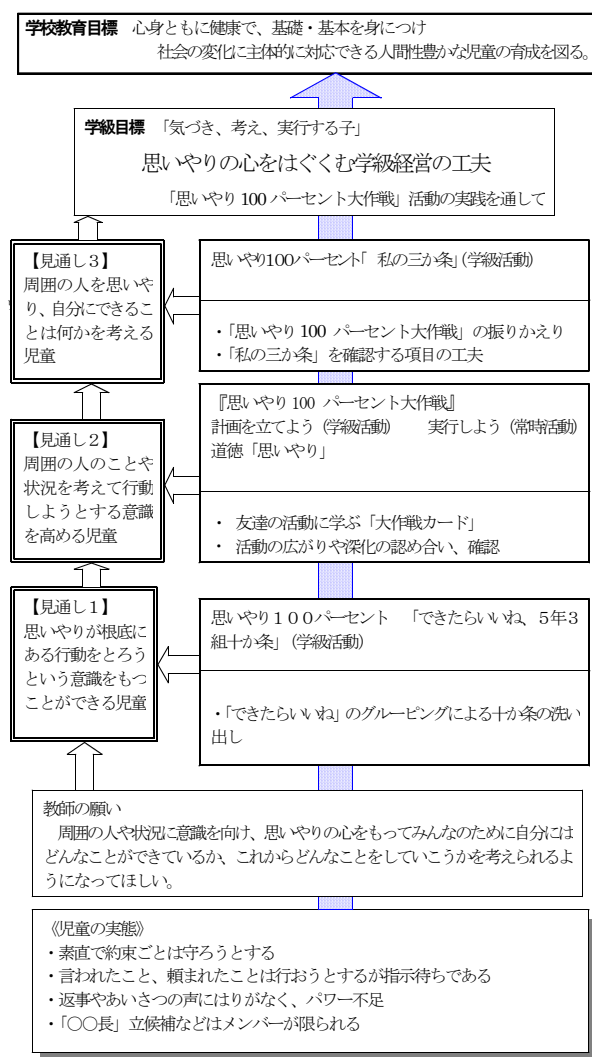
思いやりの心を行動に表せるよう周囲にいる人々のために、自分にできることは何かを考え実行していく一連の活動を行う場であり、「できたらいいね5年3組十か条」と「わたしの〇か条」(〇の数は各自が決める)を中心に学習を深めていく。1学期の林間学校で班に協力して動いていた友達を、班長が「思いやり100パーセントだね」と評したことが活動名の由来である。

他者への思いやりにつながる行動を「できたらいいね5年3組十か条」として考える。予想される「できたらいいね5年3組十か条」としては「授業や清掃の開始時間を守る」「明るいあいさつ、元気な返事」「仲間はずれは作らない」などが考えられる。児童は先ずこの「できたらいいね5年3組十か条」を実行に移すことから始め、自分や友達の活動内容を日々振り返りカードに記入し、教室に掲示する。「できたらいいね5年3組十か条」を思いやりの言動を認識する共通の知識としてとらえさせ、次に十か条以外のことにも目を向けさせたり、より高い価値の行動を考えさせたりしたい。そのための手だてとして、教師からのコメントの工夫や道徳の授業を行うこととする。掲

示したカードの読み合いを通して児童がお互いの行動を認め合ったり、学び合ったりすることで、活動に広がりや深まりが生まれると考えた。

学級での取組の後、「自分にできる」「自分もやってみたい」など個人で取り組む「私の〇か条」につなげていく。「私の〇か条」は「できたらいいね5年3組十か条」以外から決めてもよいこととし、自分なりにその行動の価値を考えた上で取り組ませていきたい。

###### (3) 全体構想図



##### 2 実践の概要および結果と考察

検証は、学級全体の活動の様子、日記、意識調査、作成した「できたらいいね5年3組十か条」「私の〇か条」及び振り返りカードの記述内容をもとに行う。

抽出児A男は事前の意識調査で「友達に優しくされたり、親切にされたことがあるか」という問いに対して「あまりない」と答え、「人の役に立

つ行いをしていると思うか」という問いには「いいえ」と答えた。また「人の役に立つ行いとはどんなことだと思うか」という記述式の問いには答えることができなかった。明るく、友達にも積極的にかかわっていく児童である。1学期は係の仕事をおぼろげに忘れることが多く、友達や担任に指摘されてから活動をしていた。

### (1) 思いやりが根底にある行動をとろうという意識をもつことができたか。(見直し1)

#### ア 実践の概要

学級活動において「学級のためにできること」をテーマに話し合いをした。林間学校で「思いやり100パーセント」という言葉が生まれた経緯を想起し、児童一人一人が学校生活において「思いやり100パーセント」と思う行動を考え、ワークシートにまとめた。その際、日常生活で無意識のうちに行っている言動に気付かせるため「毎日していることはないかな?」「当たり前と思っていることでもいいよ。」といった問いかけや助言を行った。児童がイメージした行動を内容別にグルーピングし、十か条からなる学級の行動目標を定め、その一つ一つの行動がだれのために役立つことになるかを考えた。

#### イ 結果と考察

事前の意識調査(資料1)から、学級の児童の過半数が「人の役に立つ行い」とは「困っている人を助けたり、手伝ったりすること」といった特別な心づかいから出る行動と考えていることが分かった。

#### 資料1 意識調査

Q 人の役に立つ行いとはどんなことだと思いますか。

(26人中)

- ・困っている人を助けたり、手伝ったりする (15人)
- ・お年寄りに優しくする。(2人)
- ・係や当番の子が休んだら代わりをする (2人)
- ・友達の相談にのる。(1人)
- ・係の仕事をちゃんとやる。(1人)
- ・先生に頼まれたことをする。(1人)

また、A男を含む4人の児童が無記入であった。そこで、学級活動では何気なく行っていたり、きまりだからと思ってしたりしている行動について価値を考えさせたかった。児童にとって理解しやすい例として「時間を守る」ということを挙げ、その価値について話し合いをもった。「時間を守れ

ないと大人になってからはずかしい思いをする」「きまりだから大切」という意見が出された。そこで「時間を守ることはクラスのためになるのか」と問いかけたところ「授業が時間通りに始められる」「みんなを待たせなくてすむ」「先生や友達にいやな思いをさせない」といった意見が出された。次に、個人で人の役に立つ行動のイメージを考えさせたところ「朝、おはようが言える」「脱いだ靴はそろえる」「身の回りは整理整頓」「困っている子を助ける」「悪口は言わない」など、多岐にわたった。多い子で16個の行動を考え、書けない子はいなかった。

学級全体で、人の役に立つ行動イメージのグルーピングを行う前に、素直な考えの交流により互いの行動イメージについて共通点や相違点を知ることができるよう、6つの班でそれぞれグルーピングを行い、「十か条草案」を作った。指導者はクラス全体で「できたらいいね5年3組十か条」を完成させようと考えたので、草案は十か条よりも少なくてもよいと助言したが、すべての班が10の行動を挙げていた。児童が条項作成に意欲的に取り組んでいたことが草案を作成する姿や作り上げる数からも伺える。

各班の草案作りの話し合いでは『『ロッカーの整理』は自分のためではないか?』『汚いロッカーを見ながら生活するのはクラスのみながいやだと思う』などお互いの考えを述べ合う姿が見られ、これまで気付かなかったそれぞれの行動の価値を話し合いを通して見いだそうとしていた。

学級全体で「できたらいいね5年3組十か条」に整理する話し合いでは、全員で行動内容の共通点や相違点を探し、確認し合いながらグルーピングを行った。「日直さんが仕事をしてくれるとみんなが助かることっていっぱいあると思う」「係の仕事もみんなを楽しませたり、大切な連絡をしたりしてクラスのためになっている」などの意見が出された。草案作りで一度グルーピングをしているので、行動そのものの価値を考えることができるようになってきており、ほかの班から出された行動についても進んでその価値を考え発表していた。

完成した「できたらいいね5年3組十か条」(資料2)は、日常的な行動と考えられるものが多く含まれていた。また授業の感想には「あいさつやありがとうにも思いやりがかくれてるって気がついた」「十か条をみんなでがんばっていいクラス

にしたい」という記述が見られた。

## 資料2 できたらいいね5年3組十か条

- ① 元気な返事 明るいいあいさつ
- ② 親切には「ありがとう」
- ③ 人に優しく「だいじょうぶ?」
- ④ うそはやめよう 正直に
- ⑤ 早くきれいにそうじしよう
- ⑥ 日直や係は忘れずに
- ⑦ 電気、水は大切に使おう
- ⑧ 授業やそうじの開始時間を守ろう
- ⑨ 落ちているものを拾おう  
ゴミならなおさら
- ⑩ 金曜日はしっかり留守番

A男は個人で考える場面では5つの行動イメージを考えた。「自分の周り、友達の周りのゴミを拾う」「あいさつをする。そしてあいさつを返す」の理由に「みんなの気持ちがよくなることだから」と書いていた。班の話合いでは、進んで司会者の役を引き受けた。友達が考えた行動イメージを聞きながら、「同じことを考えた人いる?」と班員に投げかけ、意欲的に草案作りに取り組んだ。全体での話合いでは、班の代表として、「なぜ人のためになるか」という理由付けをしながら草案を発表した。事前のアンケートでは「人の役に立つ行い」について記述できなかつたA男であるが、これらのことから日常の何気ない行動にも周囲への思いやりが込められていることに気付くことができたと考えられる。

### (2) 周囲の人のことや状況を考えて行動しようとする意識を高めることができたか。(見通し2)

#### ア 実践の概要

「できたらいいね5年3組十か条」を「思いやり100パーセント大作戦」と称して日常生活の中で実践していった。期間は3週間とし、自分がしたことだけでなく、友達の行動にも目を向けカードに記入し、担任からのコメントを書き添え、教室内に掲示した。「できたらいいね5年3組十か条」のほかに、自分で気付いた行動があったら実践してよいこととした。

また、児童が互いにカードの記述内容に関心をもったり、友達の行動に学んだりできるようにするため、児童が書いた実際のカードの記述内容を使って、価値のある行動とは何かを考える道徳(価

値項目 2-②)の授業を行った。「家庭科室でちがうグループの糸くずを拾った」「そうじの時余分にぞうきんがけをした」「先生に言われる前に欠席した友達の連絡セットを作った」「休んでいる子のかわりに給食当番をした」など9つの行動をよりすばらしい行動であると思う順に、個人そして班でランキングを作りながらその行動そのものの道徳的価値について考える授業とした。

#### イ 結果と考察

担任の観察では「それは第〇条だね」という言葉が子どもたちの口にのぼり、そうじ場所へ急いでいく児童や、足下のゴミを進んで拾う児童が見られるなど「できたらいいね5年3組十か条」を意識して生活する児童は増えた。A男も資料3にみられるように自分や友達が周囲のためにしたことを記述することができた。

## 資料3 A男の振り返りカード

〇できたらいいね みんなのために 今日のおまけは?  
いそがしい授業で他の人のそうじもやってあげよう  
第五條 スパンセルパンティ

〇できたらいいね みんなのために 友達がしていたことは  
そうじがおわってから授業でファイトをとる時に〇さんがとってくれた

カードの内容を見ると、前半7日間で「自分の活動」については129個、「友達の活動」については109個の記述があった。そのうち「できたらいいね5年3組十か条」以外の行動を記述したものは、それぞれ39%と46%であった。活動する姿から児童の取組は活発であると感じた。友達が書いたカードや担任からのコメントを読み合う姿も見られた。しかし掲示したカードを見て「友達を見習ってこんなことをしてみよう」といった学び合いには、なかなかつながっていかないようであった。

この実態をふまえて行った道徳では、9つの行動をまず自分の考えでランキングし、その後、班で意見交換することで行動の根底にある価値について改めて気付かせたいと考えた。児童に、ランキングで上位にしたカードについて、その内容が

なぜ素晴らしいかと聞いたところ、以下のような理由付けをしていた。(資料4)

#### 資料4 児童の考えた理由

- ・次に家庭科室を使う人が気持ちよくなる
- ・1年生がけがをしないようにと命のことを考えているから1番にした。
- ・自分がされたらうれしいことだから友達にもしたい。
- ・自分があまりできていない順に並べた。自分ができないのはむずかしいことだと思うから。
- ・多くの人の役に立つことを1番にした。
- ・自分の教室じゃないところでもきれいにするのはいいことだ。
- ・「いつも」というところがすごい。
- ・自分がしなくてもいいことなのに自分がやっているから

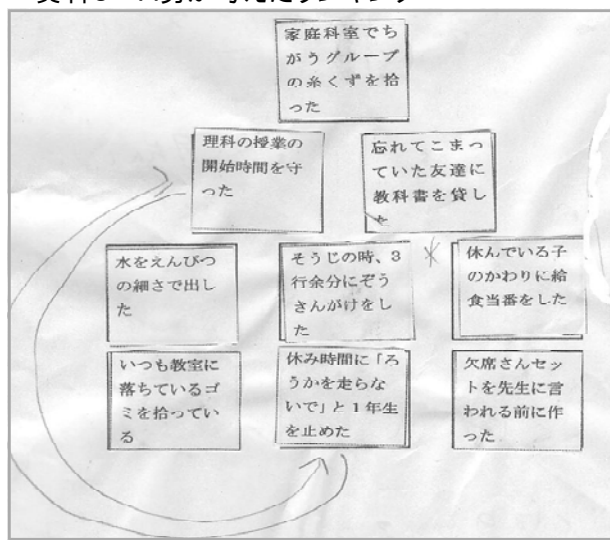
初めの2つのように他者への思いやりという行動そのものの価値を改めて確認し、記述する児童が多かった。また、下線部にあるように行動している友達の姿勢や思いを汲み取った記述もみられた。班で意見交換する場面では、時間の確保や話合いの訓練など反省が残るが、すべての班が理由付けをしてランキングを作ることができた。

#### 資料5 授業後の児童の感想

- ・例で出てきたことはそんなに難しくないことなので、自分も実行したいと思いました。難しくないことでもやれば人のためになるなんてすごいと思いました。
- ・こういうことって身近なことだけれどとても大切なことだなあと思いました。
- ・高学年として人のために何かをしたり、自分のためでも自分がやるのも大事だなと思いました。
- ※いつもは理由なんて考えずに(カードを)書くので今回はちがう人の理由がわかってよかったと思う。
- ※振り返りカードのよいところがわかりました。読むといいことが書いてあるとわかりました。

資料5は授業後の児童が記述した感想である。ほとんどの児童が今後の取組に対する意欲を記述していた。また、※印の感想は、児童が振り返りカードを書いたり、読み合ったりすることの意義について考えるきっかけになると考え、学級に紹介し、これからの活動に友達の書いたカードを生かしていこうと言葉がけをした。

#### 資料6 A男が考えたランキング



A男は初めに資料6のようなランキングを考えた。1位を決めた理由として「次に使う人のことを考えている」「きれいに気持ちよく使ってほしい」という記述をしていることから他者に対する思いやりを感じることができる。また、友達の意見を聞いて「休み時間に『廊下を走らないで』と1年生を止めた」の行為を上位に矢印で移動している。「命を守ることになるって友達の意見を聞いて、なるほどなと思った」のがその理由である。

班での話合いではさらにこの行いを1位とし、代表で発表する際「1年生を止めると、今度は2年生になった時、次の1年生が走るのを止めてくれるから」という理由を付け加えた。A男の意見は学級の児童から共感され、授業後の児童の感想にも現れた。(資料7)

#### 資料7 授業後の感想

##### (A男の発表にかかわるほかの児童のもの)

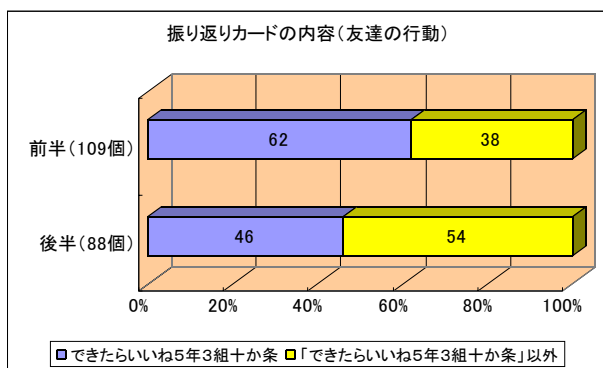
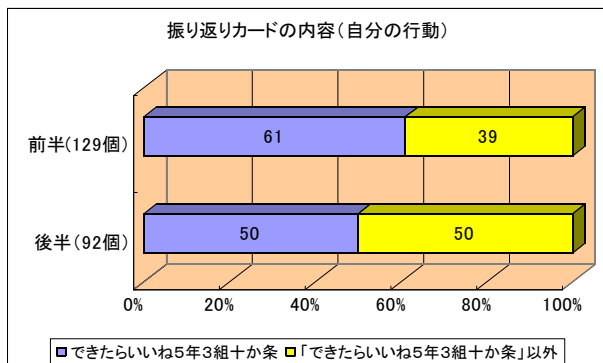
- ・A男君の「2年生になったら1年生を止められるから」という意見を聞いたとき来年のことも考えているんだなと思った。
- ・A男君の意見は食物れんさみみたいで「へええ」と思った。
- ・A男君の班みたいに考えられたらいいなと思う

A男は友達から支持を受けたと知ったとき、とてもうれしそうに表情をしていた。後半の活動後に「私の三か条」(見通し3 目安となる行動の数を与えると児童が考えやすくなる)と考え、この時点では「三か条」としていた)を決めるという話をする「これにしようかなあ」とつぶやく姿

から取組への意欲を感じることができた。

道徳の授業後の振り返りカードの内容は以下のようになった。

### 資料8 振り返りカードの内容



後半は祭日などがあったため、児童が実質活動した日数が前半より2日少なく5日間となった。そのため総記述数は減っているが、「自分の活動」「友達の活動」とともに「達成率5年3組十か条」以外の行動を書く割合が増えた。前半は「十か条を守る」という意識が強くあった。後半は、思いやりの心を自分の周囲の状況に応じて、自分なりに言動を考えて取り組むようになり、結果として活動の幅が広がってきたと考えられる。また「〇〇係が忙しそうだったから進んで手伝った」「休んでいる〇〇さんの代わりに～をした」といった記述が増え、周囲の人のことや状況を考えていることが分かる。

A男は振り返りカードに「赤ちゃんがハイハイしてもいいぐらい床の雑巾がけをした。おもいやり100パーセント大作戦成功。」と具体的な記述をするようになった。清掃時にバケツの汚れた水の取り替えを行ったA男をのことを、友達が振り返りカードで紹介した。そのことをきっかけに、A男はそうじ用具ロッカーの整理なども自発的に行うようになった。周囲のことを考える意識が高まってきたと言える。

(3) 他者を思いやり、自分にできることは何かを考えることができるようになったか。(見通し3)

### ア 実践の概要

「思いやり100パーセント大作戦」の実践を振り返り、みんなが喜んでくれたこと、やりがいのあったこと、難しかったこと、大切と思ったことを想起した。「できたらいいね5年3組十か条」はもちろん、それ以外に自分たちが周囲の人のためにできることはたくさんあるということを確認し、一人一人がみんなのためにいつも心に留めておきたい「私の〇か条」を作った。それをもとに実際に行動できたかどうかを自分で確認する項目を作成し、1週間の実践と振り返りを行った。

### イ 結果と考察

初めは「私の三か条」ということで投げかけたが、数名の子はとても悩んでいる様子が見られた。「どれも大切に思える」「1つなら絶対これというのを決められるけど・・・」というのがその理由であった。そこで「三か条」にこだわらず「〇か条」とした方が適切と考え「1つでもいいよ。ずっと覚えていられるものを考えよう。」と声をかけた。その結果、全員が「わたしの〇か条」を作成することができた。

### 資料9 「私の〇か条」の内容例

- ・ 手が足りないとき、プリント配りを手伝う
- ・ パトロールをしている人にもあいさつをする。
- ・ 自分のそうじが終わったら、ほかの人のそうじを手伝う。
- ・ 給食当番の子が休んだら、代わりに仕事をする。
- ・ 教室移動の時、電気を消すことを忘れない

(A男の決めた三か条)

- ・ そうじは時間を守り、ぴかぴかに
- ・ 1年生には「走らないでね」と優しく言う
- ・ 先生がいない日もやることはちゃんとやる

資料9に見られるように具体的な行動を記述する児童が多かった。見通し1の実践において、個人で行動のイメージ作りをした時にはあまり見られなかった周囲を意識した下線部のような表現が多く見られた。低学年や地域の人にも目を向けたり、最高学年になってからのことを意識したりと自分を取り囲む人々や状況を考えながら条項を作成していた。これらのことから、「〇か条に決めたことを日常生活で実践していこう」という児童

の気持ちを読みとることができた。

A男は「私の三か条」とし、選んだ理由を「一か条は、振り返りカードにも書いたけど思いやり100%で赤ちゃんがなめられるくらい教室をきれいにしたいから。二か条は道徳の授業で発表した通り1年生が2年生になってからのことを考えた。三か条は先生が金曜日にいないけど勉強や仕事をちゃんとやって安心してほしいと考えたから」と記述していた。自分を取り巻く人や状況に目を向け、自分なりにできることを考えていた。

その後、一週間の児童の活動の様子を観察した。「教室を移動するときは電気を消す」「忙しい係を手伝う」「自分からあいさつをする」など、以前なら担任に言われてから行動していたA男を含む数名の児童も自発的に行動する姿が見られた。

また「私の〇か条」と照らし合わせての振り返りでは、自分の行いに自信をもって二重丸(たいへんよい)をつける児童もいたが、担任としては十分に活動していると思える児童が「ふつう」や「まだまだ」の評価をする場合もあった。「もっと喜んでもらいたい。そのためにはまだ不十分」と自分の行動を厳しく見つめたためと考える。

以上のことから、他者を思いやり、自分にできることを具体的に考えることができる児童が増えてきたと言える。

「できたらいいね5年3組十か条」から「私の〇か条」につながる一連の「思いやり100パーセント大作戦」を通じて、周囲の状況に配慮し相手に優しい言葉をかけたり、人の役に立とうとしたりする児童が増えてきた。一連の指導はそれらの行動のもととなる思いやりの心をはぐくむために有効であったと考えられる。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

- 学級で何気ない行動の価値について確認し、共通の知識、共通の目標として「できたらいいね5年3組十か条」を作ったことは、「これなら自分にもできそうだ」という意識を児童にもたせることとなった。
- 日常生活において「100パーセント大作戦」を実践に移し、振り返りを行ったことで、その行動のやりがいや、大切さを実際に感じることもできた。
- 道徳の授業において、より価値のある行動に

ついて個人、班、学級で考え、話し合いをもったことで、自分では気付かなかったその行動のよさに改めて気づき、実践への意欲につながった。

- 学級活動で「私の〇か条」を考え作り上げたことで、児童一人一人が周囲への接し方、働きかけについて具体的な思いやりのある行動を自身のめあてとしてもつことができた。

### 2 今後の課題

思いやりのある行動を身近なものとしてとらえたり、さらにそれらの中から、やりがいのある具体的な目標を定めたりすることができた。

学級全体での取組(「できたらいいね5年3組十か条」)においては、お互いに活動を認め合う機会があったため、児童もやりがいを感じ、楽しみながら活動している様子が伺えた。しかし、個人の取組(「私の〇か条」)では学級全体で認める機会を設けなかったため、「個人のさりげない活動が学級のためにこんなに役立っている」という意識、やりがいを感じさせることができなかったのではないかと考える。教師による個別の賞賛や承認は常に行ってきたが、見通し3においても学級全体で認められたり、たたえられたりする機会を意図的に設けることが、小学5年生という段階ではまだ必要ではなかったかと考えている。

また、その行動が自己満足になっていないか、本当に相手のためになることかなど、よりいっそう相手の立場や思いを尊重したものになっていくよう工夫をしていく必要がある。

〈参考文献〉

- ・石井 光 編著『子どもが優しくなる秘けつ』教育出版(2003)
- ・向山 洋一 監修『当たり前のことができる子どもを育てる』明治図書(2004)
- ・安達 昇 編著『人と人を結び、思いやる心を育てる授業』小学館(2005)
- ・佐藤 幸司 編著『とっておきの道徳授業』日本標準(2001)

(担当指導主事 関口 満)

